

## ビジョンの目的

- 地域の誰もが年老いても住み慣れた地域で最期まで自分らしく安心して暮らしていけるために、今から10年後を見通して、保健・医療・福祉の連携による切れ目のないサービスが提供でき、地域全体で医療福祉を守り育てる地域をめざします。
- 地域の医療福祉関係者と住民がともにビジョンを共有し、連携して、その実現に向けた取り組みを進めていきます。

## 医療福祉の現状

出てきた課題

### 1. 人口・高齢化の状況

- ・65歳以上人口増加 15歳未満人口減少
- ・高齢化率は24.2%で県全体より高い
- 長浜市北部、米原市で特に高齢化が進み3~4人に一人が高齢者
- ・約5割が、65歳以上の世帯員がいる世帯
- 特に旧余呉地域は7割、西浅井、木之本、伊吹等は6割以上

### 2. 健康の状況

- ・男性肺がん、女性胃がんの死亡が全国平均より有意に高い
- ・特定検診やがんの受診率は米原市が比較的高いが50%には届かない 長浜市は県平均より低い状況
- ・日頃意識的に運動をしている人は半数程度
- ・男性の肥満増加傾向

### 3. 医療の状況

- ・病院(一般病床)の平均在院日数は14.8日と県内で最も少ない
- ・入院患者の地域完結率は高い
- ・訪問診療を行う診療所33、在宅療養支援診療所12(人口10万対7.4(県5.6))
- ・在宅訪問歯科診療実施診療所15
- 保健調剤薬局55、うち麻薬取り扱い36
- 無菌調剤対応薬局1
- 訪問看護ステーション 12(人口10万対7.4(県5.0)) 多くは24時間対応体制
- ・回復期病床がない
- ・病院常勤医師H16年183人→H22年169人に減少 診療科を休診する病院もある
- ・看護師等の確保厳しい
- ・小児科診療所が少ない。軽症患者の病院受診増による病院小児科の負担大
- ・軽症での二次、三次救急病院受診増加
- ・22年度から休日急患診療所が稼働、
- ・へき地医療

- へき地医療拠点病院の医師不足
- 国保直営診療所の医師確保が難しい
- ・在宅療養・在宅看取り
- 自宅死亡率は県下で最も高い(20.7%)
- 施設死県平均より高い(6.8%)
- 在宅療養・在宅看取りに不安を持つ人は多い

- ・在宅療養・在宅看取りに不安を持つ人は多い

### #1

#### 医療分野の課題

- (1) 医師・看護師等医療従事者が不足
  - ・市立湖北病院等の常勤医師の減少による診療科の休診
  - ・北部の国保診療所の医師の確保困難
  - ・精神科医師の不足 地域医療を志す医師の確保が課題
- (2) 病院勤務の医師や看護師等が疲弊
  - 軽症患者の安易な救急病院受診の増加などによる病院医師、看護師等が疲弊
- (3) 医療の機能分化の推進と地域完結型医療の充実
- (4) へき地医療の確保が必要
- (5) 回復期リハビリテーション医療を担う医療機関がない
- (6) 在宅医療・在宅看取りへのニーズの増大
- 在宅療養を希望する人は多いが在宅療養を支える体制は十分でない 介護・福祉の連携体制強化が必要
- (7) 保健と医療の連携による疾病重症化予防が必要
- (8) 認知症の早期対応の必要性
- 相談体制のより充実、認知症への正しい理解などが必要
- (9) うつ・自殺対策の充実が必要

### #2

#### 介護・福祉分野の課題

- (1) 人材の確保と育成
  - マンパワーが不足 介護職の人材確保、養成、離職防止が必要
- (2) 介護施設の受け入れは限界
- 高齢化の進展を迎え、できるだけ在宅で支えられるような医療と介護サービスの充実が必要
- (3) 地域が広く、訪問や送迎に時間がかかる
- (4) 介護予防・重症化予防への取り組みの充実が必要
- 介護予防サービスの充実、住民への啓発を進める必要がある
- (5) 医療との連携強化が必要
- ・「地域包括ケア」の一層の推進
- ・切れ目のない医療福祉の連携による在宅療養支援などが必要
- (6) 認知症の早期対応の必要性
- 早期発見、早期治療のための理解や相談体制の充実が必要
- (7) うつ・自殺防止への対応が必要

### #3

#### 地域の課題

- (1) 住民相互のつながりの希薄化
- 高齢者世帯を地域ぐるみで支え、見守る方策が必要
- (2) 閉じこもり高齢者が増えている
- 高齢者が社会参加できる環境づくりなどが必要
- (3) 高齢者を支援するボランティア活動を活発にすることが必要
- (4) 在宅医療、在宅看取りについて住民が考えることが必要
- (5) 一人ひとりの健康維持の意識を高めることが必要
- (6) 認知症に対する地域での取り組みが必要
- (7) うつ・自殺防止へ地域でのきづき、見守りが必要
- (8) 地域全体で医療福祉を守り育てる意識、機運の醸成
- 住民が地域医療の現状を理解することが必要
- 医療情報を知り上手に適切に受診することが必要
- 「かかりつけ医」を持つことが大切

## 目指すべき方向

(基本的な取り組みの方針)

### 1. 医療福祉の基盤の充実をめざします

## 目指す姿

### 2. 住民の手で医療福祉を大切に守り育てる地域をめざします

### 3. 地域の一人ひとりが健康に心がけ、地域の支え合いを力強くします

## 具体化に向けて

### 1. 「医療福祉の基盤の充実をめざします」 (主に、医療福祉関係者、行政の取り組みとして)

#### 1. 人材の確保と育成を図ります

- ① 不足する人材確保と離職防止
- ② 医療福祉サービスの充実のための人材の育成

#### 2. 圏域に必要な機能の充実を図ります

- ① リハビリテーション機能の強化
- ② 救急医療体制の充実
- ③ へき地医療の確保
- ④ 医療機能分化
- ⑤ 病病連携、病診連携の推進
- ⑥ 在宅療養支援ネットワークの構築
- ⑦ 在宅医療・在宅看取りへの対応体制の充実
- ⑧ 介護・福祉サービスの充実
- ⑨ 認知症医療・ケアの充実
- ⑩ うつ・自殺防止への対応
- ⑪ 医療福祉情報の啓発の充実

#### 3. 多職種による医療福祉の連携を図ります

- ① 地域連携クリティカルパスの推進
- ② 「医療と介護の連携についての手引き」による医療福祉連携の推進
- ③ 地域包括ケアの推進
- ④ 地域医療支援センターによる多職種連携促進
- ⑤ 医療と地域保健との連携推進

### 2. 「住民の手で医療福祉を大切に守り育てる地域をめざします」 (地域の全員の取り組みとして)

1. 地域の医療福祉の課題を住民も共に考えます
- 地域の医療福祉サービスが貴重な人材によって支えられていること、医療福祉を守り育てることの大切さなど、地域の医療福祉課題について、地域の中で考える

#### 2. 救急医療の適切な利用について考えます

- ① コンビニ受診の弊害に対する正しい理解、適切な救急受診の推進
- ② 急な病気・けがの応急処置の啓発、小児救急などに関する医療情報の啓発の推進

#### 3. 「かかりつけ医を持つ」ことを推進します

- 住民の一人ひとりが自分の健康状態や病気の内容を把握してもらえる「かかりつけ医」を持つことの重要性についての啓発

### 3. 「地域の一人ひとりが健康に心がけ、地域の支え合いを力強くします」 (地域の全員の取り組みとして)

#### 1. 栄養、運動、休養、健診受診等の健康推進活動を推進します

- ① 日常的によりよい食習慣、運動の継続など健康の維持・増進に取り組むことの啓発、機会の提供など
- ② 健康診断等の受診の啓発
- ③ アルコール、喫煙等の健康被害への正しい知識の啓発

#### 2. 「共助」の意識を高める活動を推進します

- ① 住民相互の交流、世代を超えた交流等地域活動の推進
- ② 支援の必要な人を地域で支える意識の醸成
- ③ 地域福祉事業等社会活動への積極参加の促進
- ④ 民生委員活動、健康推進員活動への地域全体からの応援

#### 3. 高齢者の居場所づくり、生きがいづくりを支援します

- ① 高齢者の居場所づくり、生き甲斐づくりを支援する取り組みの推進
- ② 老人クラブ、シルバー人材センター活動自主活動の連携支援

#### 4. 見守り、配食、買い物支援等のボランティアを育てます

- ① 地域のボランティア活動の紹介、支援の推進
- ② 見守りサービス、配食サービス、買い物支援等のボランティアの発掘や人材育成の推進

#### 5. 在宅療養・在宅看取りについて理解を深めます

- ① 在宅療養への地域での支援の推進
- ② 在宅療養・在宅看取りの理解への啓発

#### 6. 認知症の早期発見・早期治療や患者・家族を支援します

- ① 認知症への理解を深め、早期発見・早期治療の重要性と患者・家族を地域で支援することを地域で考える
- ② 認知症になっても安心して生活できる地域をめざす

#### 7. 自殺防止の取り組みを推進します

- ① 受診や相談の重要性の啓発 ② うつ、自殺防止への理解の普及